

研究に関するご協力のお願い

福島県立医科大学生殖医療センターでは、本学倫理審査委員会の承認を得て、下記の研究を実施します。本学における診療情報の利用について、関係する皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

2026 年 9 月

福島県立医科大学生殖医療センター 高橋 俊文

■ 研究課題名

初回調節卵巣刺激周期におけるフォリトロピンデルタ及びフォリトロピンアルファの治療成績に関する後方視的研究

■ 研究期間

2026 年 9 月 ～ 2027 年 9 月

■ 研究の目的・意義

生殖補助医療（Assisted Reproductive Technology：ART）において、調節卵巣刺激は、1 回の採卵で複数の成熟卵子を獲得することで受精卵数を増加させ、妊娠を得るための可能性を高めることを目的として実施される重要な治療過程です。一方で、調節卵巣刺激に伴う合併症として卵巣過剰刺激症候群があり、卵巣腫大や血液濃縮に加え、重症例では胸腹水貯留や血栓症を来す可能性があります。複数の卵胞を发育させるためには注射剤の投与が必要ですが、その反応性には患者さん個人個人で大きな差があります。現在、当院で卵巣刺激に用いる注射製剤には 2 製剤があります。フォリトロピンデルタは血清抗ミュラー管ホルモン値および体重に基づいて投与量を決定しますが、フォリトロピンアルファは患者さんの年齢、卵巣予備能および過去の卵巣反応等を考慮して投与量が設定されます。しかしながら、どちらの製剤を選択するのかという基準については十分に確立していません。

本研究は、初回調節卵巣刺激周期を対象として、フォリトロピンデルタとフォリトロピンアルファによる卵巣刺激成績を比較するとともに、患者さんの背景が各製剤の治療成績に及ぼす影響を検討することを目的としています。さらに、両製剤それぞれに適した患者さんの背景を明らかにすることで、個々の卵巣予備能や身体的特徴に応じた適切な注射剤の選択に必要な情報を得ることも目的としています。

本研究により、患者さんそれぞれの背景に応じた注射剤の適切な選択に関する知見が得られれば、過剰反応や反応不良を回避しつつ、効率的な成熟卵子の獲得につながる可能性があります。また、患者さんごとに最適な卵巣刺激法を選択することにより、安全性の向上、負担の軽減、ならびに

治療成績の向上に寄与することが期待されます。

■ 研究対象となる方

2026 年 01 月～2026 年 06 月までの間に福島県立医科大学において生殖補助医療による不妊治療を受けた患者のうち、初回採卵に向けて治療を行った患者さんで、18 歳以上の成人が対象です。

■ 研究の方法

対象となる方のカルテ上の診療情報から年齢、BMI、これまでの妊娠出産歴、既往歴、不妊治療の内容（どちらの注射製剤を選択し、どのくらいの量で使用したか）、採卵の結果などの項目についてデータを収集します。

■ 試料・情報の利用を開始する予定日

2026 年 10 月 1 日

■ 研究組織

この研究の研究事務局は福島県立医科大学生殖医療センターであり、研究責任者は生殖医療センター 高橋俊文です。集められた情報の管理責任者は福島県立医科大学学長 鈴木弘行であり、それらの情報は福島県立医科大学生殖医療センターで利用し解析を行います。

■ 他の機関などへの試料・情報の提供について

収集した情報に関しては他の機関へ提供することはありません。

■ この研究に関する問い合わせ

この研究に関して質問などございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象の方の個人情報や知的財産の保護などに支障がない範囲で、研究計画書や研究方法に関する資料が閲覧できます。

また、試料・情報がこの研究に利用されることについて、研究対象者ご本人または代理の方にご了承いただけない場合は、研究対象者とはせずに試料・情報の利用や提供はいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人または代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果がすでに医療系雑誌への掲載や学会発表がなされている場合は、データを取消すことは困難な場合もあります。

問い合わせ先

〒960-1295 福島県福島市光が丘 1 番地

公立大学法人福島県立医科大学生殖医療センター 担当：大越千弘

電話：024-547-1451

e-mail：chihiro.oko@gmail.com